

地域ちいきに育ち、地域に見守られ、地域を見守る ボクのおこがれ

ボクが子どものころ、スマホはなかった。ゲームもなかった。テレビもなかった。あったのは、たくさんの遊びの時間。街なかのにぎやかな商店街がボクの遊び場。「こら、タカシ。あぶないぞ」。そこにいたおじさん、おばさんたちがいつも見守ってくれた。

ボクが小学校に入ると、夏休みや春休みが楽しみだった。近所のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちといっしょにワクワクする冒険ぼうけんに出かける。川に魚釣り、海に海水浴、山にアケビとり。汽車に乗って温泉おんせんにも行った。いつもボクたちの冒険に付いて来てくれたのが子ども会のおんちゃん、おばちゃんたちだった。おんちゃんたちはなんでもよく知っていた。ボクのおこがれ。おんちゃんたちはボクに勇気をくれた。「だいじょうぶだよ、タカシ。やってみろ」ボクの背中せなかを押ししてくれた。

時が流れ、今度はボクが子ども会のおんちゃんになったとき、ボクたちおんちゃんたちも子どもたちといっしょに楽しんだ。このとき、子どもたちが防災

マップを作った。チリ地震津波じしんつなみの被害ひがいや地震で倒れるかもしれないあぶないブロック塀べい、井戸のあるお家について街の人たちにインタビューして歩いた。それで子どもたちは街を知り、地域を知った。

東日本大震災で苦しかったとき、そこには大きくなった子どもたちがいて、高台に住むお年寄りとしよのために配給された水や食べ物などを運んであげたり、山から湧き水をくんで運んだりしてがんばってくれた。

ボクは地域のおんちゃんたちに見守っていただいた。そのボクが地域の子どもたちを仲間といっしょに見守り、その子どもたちも大きくなって地域を見守ってくれる。そうしてますます笑顔のあふれる街・地域が作られていくといいなと思う。

ボクは何歳になっても、子どもたちを、地域を見守っていきたい。

ボクは子ども会のおじいちゃんになりたい。

石巻市民生委員児童委員協議会 会長 鎌坂 隆

地域の力を合わせて

災害さいがいはいつ起こるかわかりません。また、地震や津波、大雨による土砂崩れどしゅうずなど、災害の種類や規模も常に異なります。だからこそ、地域のみんで防災活動をするのが大切になります。私たちまちづくり協議会は、地震や津波が起きたときに避難ひなんをする訓練や、災害時に通ると危ない道などを調べる活動をして

います。もし災害が起きたら、自分ひとりではなく、地域のみんで協力することが大切です。小学生のみなさんも、家族と避難場所を確認したり、災害時の行動について話し合ったりしてみましよう。防災は、みんなの命を守る大切な活動です。地域の力を合わせて、安全なまちをつくっていきましょう。

鹿折まちづくり協議会事務局長 森 睦史

